

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

未来を創造する税金

熊本市立白川中学校

二年 本園 美和

私は小学一年生の時に重い病気をした。その時のことはよく覚えていなかったが、母によると、最初はただの風邪だったそう。しかし、四十度の熱が一週間以上も続き、嘔吐や脱水症状が現れたので、小児科に行った。すぐに大病院に行けと言われたので、大病院で血液検査をしたところ、「血球貧血症候群」と判明し、入院することになった。血球貧血症候群とは、血液を構成する白血球や赤血球、血小板などの血球が組織液・マクロファージに食べられて減ってしまう難病で、国内での発症者は数百人程度とまれな疾患だと分かった。私は一時は危険な状態だったが、大勢の人のおかげで段々と快方していった。治療費や入院費が気になったが、「高額医療費制度」のおかげで自己負担限度額を超えた分は、あとで払い戻しをされたそう。これは税金から払われたと知り、興味を持った。

そこで、さらに調べると、税金が最も多く使われているのは医療・年金・福祉・介護に関する社会保障費だと分かった。また、教科書や実験器具など身近なところにも税金は使われていて驚いた。次に、税金はどこから集められるのか調べてみた。私は消費税しか思いつかなかったが、仕事で稼いだ給料などにかかる所得税や住んでいる都道府県、市区町村に納める住民税など様々なところから、税金を納めていると分かった。このようにして私達の健康や生活は税金に守られているのだと学んだ。でも、人によって納める金額が違うのは少し不公平ではないかとも思った。

そこで、税金と年齢についても調べた。子供は消費税だけ払い、教育費などは税金からなので、「税金を使う側」といえるが、社会人は支払う税金が多いのでどちらかというと「税金を納める側」になる。高齢者は三種類の税金を払うが、医療や年金や介護などの援助があるので、「税金を使う側」といえる。

しかし、今、少子高齢化によって、税金を支える社会が厳しい状況になっている。高齢者の増加で必要な税金も増加していくが、一方で高齢者を支える若者の数は減少しているので、これからの日本が心配になった。あるアンケートでZ世代の五割は「子供が欲しくない」と答えていた。また、九割が「もっと子育てに金銭的支援が必要だ」と答えた。だから、妊娠から大学までにかかる費用にもっと税金で支援するべきだと思った。

今までは税金と聞けば消費税が一番出てきて、お金を奪われるものだという意識があった。しかし、納税は社会を支えていて、私の一円も誰かの役に立っていると思うと、素晴らしいことだと思えるようになった。また、税金は私が思っていたよりもずっと身近にあり、もっと大切なものだと気づかされた。一人一人が税金や社会問題に目を向けて、明るく平和な未来を目指していきたい。